

質問書に対する回答

(工事名) 道東自動車道 新得PA工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	貸与いただいた詳細設計資料の数量計算書と設計図書との間に差異がある箇所が散見されます。設計図書に記載の数量を算出した際の数量計算書の開示いただけないでしょうか。施工検討に必要なだと考えておりますのでお願いいたします。	設計図書が正となります。設計図書に基づき算出ください。
2	土砂B, 土砂F相当とされている工種について、図面では明確に判断できないのですが、比率についてどう考えておられるかご教示願います。	貸与資料に示す数量を参考にお考えください。
3	道路掘削、客土掘削の区分内容が盛土箇所への「運搬、敷均し、積込み」となっています。「運搬、敷均し、締固め」ではないでしょうか。	特記仕様書P28 道路掘削及び客土掘削の区分内容2)は「下記盛土箇所への運搬、敷均し、締固め」が正となります。 R08.06.11掲載の訂正公告をご確認願います。
4	土運搬の経路が示されていますが、各経路は如何なる時も走行可能と考えてよいのでしょうか。	広内2号線付替道路等の施工中は特記仕様書 14-1 工事用道路の指定に記載の㊸-4 町道広内2号線が走行不可となるため、本工事で新設する㊸上り線側本線内工事用道路等に迂回となります。
5	特記仕様書26-3-1の捨土掘削について、各項目の区分内容において道道盛土場への運搬と表記されていますが、盛土箇所での受け入れ作業（敷均しおよび、締固め作業）は、含まれないとの理解でよろしいでしょうか。	特記仕様書26-3-1に記載のとおり、掘削、積込み、運搬までの施工となります。
6	特記仕様書26-3-1の捨土掘削 土砂 Aについて、区分内容において、本線掘削箇所、新得PA掘削箇所、新得スマートIC掘削箇所における土砂の掘削、積込みと表記され、新得町分については表記されていませんが、数量明細書では、新得町（スマートIC）、新得町（道の駅）に数量計上されています。具体的な作業内訳、数量内訳についてご教示いただけますでしょうか。	捨土掘削 土砂Aの区分内容 1) の掘削箇所に新得町（新得スマートIC）、新得町（道の駅）は含まれません。 訂正公告をご確認願います。

番号	質問事項	回 答
7	当方で鋼板ふた数量を精査したところ、2,899.5kgとなりました。設計数量は2,874kgとなっていますが、内容の確認をお願いいたします。	鋼製ふた工の数量は、3,172kgが正となります。後日、設計図書を訂正いたします。
8	■金抜設計書 単価番号：1,8 ■その他資料：特記仕様書p14, 28, 29 「26-3-2盛土工」にて、新得町（道の駅・新得スマートIC）箇所の盛土工 C1 は、「15. 工事用材料に関する事項」に記載のとおり、現地発生材を使用するものとされています。また、「共通仕様書 2-7-2」において、凍上抑制層の材料については「特記仕様書に示すとおり」と規定されています。特記仕様書によると、2種の凍上試験で材料適否を確認する必要があるものの、流用元に関する記載が見当たりません。 ■質問 1) 上記の解釈を前提とした場合、断面によっては凍上抑制層を施工する箇所の現地盤を掘削後、同一測点（全く同じ位置）において当該掘削土を凍上抑制層材料として転用し、敷均し・締固めを行うことが最も経済的な施工方法となりますが、この解釈に相違はありませんか。 （例：A2ランプ STA. 8+90.000のMLより北側） 2-1) 「26-3-1 道路掘削 客土掘削 捨土掘削」で使用する「道路掘削 土砂 A（特に凍上抑制層）」に関して、「15. 工事用材料に関する事項」に材料の規定がありません。盛土工 C1 と同様に2種の凍上試験で適否を確認の上、現地発生材を使用すると考えてよろしいでしょうか。 2-2) この場合も、1）と同様に掘削した土砂を同一測点に凍上抑制層として敷均し・締固めすると考えてよろしいでしょうか。 （例：A1 ランプ STA. 10+19.123）	1)盛土工 C1 に使用する材料は、新得町（道の駅）盛土場の材料となります。R08.06.11掲載の訂正公告をご確認ください。 2-1)特記仕様書15-1 盛土材等（4）に記載のとおりとなります。 2-2)同一断面において切土および凍上抑制層の盛土を計上している箇所は、特記仕様書15-1 盛土材等（4）に記載の基準を満たさない土砂が発生すると想定しています。

番号	質問事項	回 答
9	■金抜設計書 単価番号：19 ■その他資料：設計図（4.詳細図） ■図面番号：32/58及び33/58 ■質問 詳細図（１）の標準断面図に図示された「型わく」及び「基礎材」の数量は、詳細図（２）のコンクリート基礎工A（F）詳細図に図示された「型わく」及び「基礎材」の数量と同一のものでしょうか。10m当り数量である詳細図（２）の数量をもとに計算したところ、詳細図（１）の数量と大きな乖離があります。 同一である場合、詳細図（１）が誤、詳細図（２）が正と考えてよろしいのでしょうか。	詳細図(1)はブロック積み工、詳細図(2)はコンクリート基礎工の数量表となります。 なお、詳細図(1)の基礎材数量は基礎工の延長となります。 後日、設計図書を訂正いたします。
10	■金抜設計書 単価番号：49,74 ■その他資料：設計図（4.詳細図）及び数量明細表 ■図面番号：11/128~19/128 鋼製ふた工及び集水ますに関する、図面と数量間の不一致についてお伺いいたします。TypeLは数量明細表上では26箇所とありますが、新得PA・SIC平面図（詳細図）では22カ所ほどしか見受けられません。また、詳細図（４）～（６）では$Dc^{\wedge}(Sp)-0.90-0.90-1.10$及び$Dc^{\wedge}(Sp)-0.70-0.70-0.70$という枠が旗揚げされていますが、数量明細表上では計上されていません。 さらに、これらの枠に設置する鋼製ふたの合計重量が図面から算出したものと数量明細表に記載のものとで一致しません。TypeLの不一致分と$Dc^{\wedge}(Sp)-0.70-0.70-0.70$の分を考慮しても想定で組み合わせても近似した値が得られません。 ■質問 1) TypeL及び$Dc^{\wedge}(Sp)-0.70-0.70-0.70$は図面と数量明細表のどちらが正でしょうか。 2) 蓋の算出根拠または数量内訳をご教示お願いいたします。	1) 集水ますTypeLは、23箇所が正となります。 また、$Dc^{\wedge}(Sp)-0.70-0.70-0.70$はTypeB、$Dc^{\wedge}(Sp)-0.90-0.90-1.10$はTypeEで計上しています。 後日、設計図書を訂正いたします。 2) 鋼製ふた工の数量は、3,172kgが正となります。 数量の算出は、用排水構造物標準設計図集304及び詳細図2/58、3/58、26/58、27/58をご確認ください。 なお、設計図及び数量に誤りがありましたので、後日、設計図書を訂正いたします。

番号	質問事項	回 答
11	■金抜設計書 単価番号：なし ■その他資料：設計図（1.連絡等施設） ■図面番号：11/128~19/128 ■質問 質問番号3のほかに、以下が図面に旗揚げされているものの、数量明細表で計上されていません。図面と数量明細表のどちらが正でしょうか。 ・Dc-S-0.80-0.80-2.35(改修)-C ・Dc-S-0.80-0.80-2.25(改修)-B ・Dc-1.30-1.30-1.15 ・Dc-S-0.80-0.80-1.20	・Dc-S-0.80-0.80-2.35(改修)-C及びDc-S-0.80-0.80-2.25(改修)-Bは率計上項目にて計上しております。 ・Dc-1.30-1.30-1.15は集水ます Type Lで計上となります。なお、Dc[^](Sp)-1.30-1.30-1.15が正となりますので、後日、設計図書を訂正いたします。 ・Dc-S-0.80-0.80-1.20 土木工事共通仕様書5-4-2(4)集水ますの種別のとおり、TypeEで計上しております。
12	■金抜設計書 単価番号：38, 39, 60~63 ■その他資料：特記仕様書p34, 36 ■質問 土留工について、「用排水管」及び「集水ます」に係る土留設計に使用するN値が公示資料に見受けられません。当初設計では、橋台工に係る土留設計に使用したN値(設計報告書に記載)と同じ値であると判断してよろしいですか。そうでない場合は、以下のそれぞれの工種についてN値をご教示お願いいたします。 ・P (P o - B) ϕ D (S d - B) - A ・P (P o - B) ϕ D (S d - B) - B ・集水ます T y p e W ・集水ます T y p e X ・集水ます T y p e Y ・集水ます T y p e Z	換算N値は最大180を想定しています。
13	■金抜設計書 単価番号：69 ■その他資料：設計図（2.橋梁下部工）及び数量明細表 ■質問 図面では擁壁工にも地下排水工(Du-p ϕ 0.15・0.15・0.50)13.2mが計上されていますが、数量明細表では下部工の地下排水工28.2mしか計上されていません。つきましては、数量のご確認をお願いいたします。	地下排水工 Du-p ϕ 0.15・0.15・0.50の数量は、41.4mが正となります。後日、設計図書を訂正いたします。

番号	質問事項	回 答
14	■金抜設計書 単価番号：99,100 ■その他資料：特記仕様書p43及び工事工程表（概略工程表） 仮設防護柵工について、以下の通り、リース期間及び撤去工の考え方をご教示お願いいたします。 特記仕様書p43には「仮設防護柵工 存置工 A」にてリース品(31ヶ月)とあります。また、工事工程表には仮設防護柵が令和9年5月～6月に実施とあります。 ■質問 1) 工事工程表には数量が760mとありますが、図面及び金抜設計書から読み取ることができる数量は2,180mであり一致しません。工程表の数量の記載は誤りで2,180mが正であると判断してよろしいですか。 2) 特記仕様書ほか公示資料には、当初設計における撤去に関する記述がありませんが、本工事では撤去せずに存置すると考えてよろしいでしょうか。しかし、この考え方の場合、設置時期である令和9年6月ごろから起算して、終期である令和12年3月末までの期間が34.5カ月と特記仕様書の「リース品(31ヶ月)」という表記と一致しません。以下のいずれの考え方でしょうか。 A) 本工事で撤去するため、総供用期間も本工事における供用期間も31ヶ月 B) 本工事では存置し、本工事における供用期間は34.5カ月前後であり、総供用期間はそれ以上 C) その他の考え方 Bの場合は当初設計における総供用期間をご教示お願いいたします。Cの場合は総供用期間、本工事における供用期間及び撤去するか否かをご教示お願いいたします。 3) 仮にリース期間が31ヶ月でない場合、「仮設防護柵工 存置工A」の数量も変更になると考えられます。	1) 仮設防護柵の延長は、仮設防護柵工 設置工A(Y)の2,180mとなります。後日、資料を訂正いたします。 2) 仮設防護柵は他工事への引継ぎを想定しているため、本工事では存置のみとなります。 本工事での存置期間は令和9年度5月から令和11年度冬期休止期間前までの31ヶ月、総供用期間は35ヶ月を想定しています。
15	詳細図P32/58 コンクリートブロック積工詳細図 数量表記載の基礎材RC-40 (m3) は、基礎工A (F) (m) で宜しいでしょうか。	詳細図P32/58 基礎材RC-40 (m3) の数量は、基礎工A (F) (m) の数量となっております。 後日、設計図書を訂正いたします。

番号	質問事項	回 答
16	詳細図P34/58 広内2号線付替道路一般図 数量明細表1/6 捨土掘削 広内2号線付替道路一般図の数量表に道路掘削土砂A：201m ³ との記載がありますが、数量表は捨土掘削、町道広内2号線土砂A：201m ³ となっていますが、どちらが正でしょうか。ご教示ください。	町道広内2号線は、捨土掘削 土砂Aで計上となります。 後日、設計図書を訂正いたします。
17	詳細図P34/58 広内2号線付替道路一般図 数量明細表1/6 道路掘削 広内2号線付替道路一般図の数量表に（盛土）路体部6,332m ³ 道路掘削にて計上との記載がありますが、数量表の道路掘削の新得PA60,435.5m ³ または新得町（道の駅）53,410.2m ³ のどちらに数量は計上されていますか。計上すると、PA路体盛土数量が不足になるため計上されている数量表（名称及び測点）をご教示ください。	詳細図P34/58の数量表、（盛土）路体部に示す土量については、数量明細表において新得PAにて計上しています。 新得PA盛土箇所路体部の施工は、道路掘削 土砂Aおよび客土掘削 土砂Aにて計上しています。 なお、客土掘削 土砂Aの数量区分は、新得PAの数量が6813.7m ³ 、SICの数量が565.9m ³ となります。 後日、設計図書を訂正いたします。
18	単価番号40～42番 P（Po-B）・φ0.45～0.60（Sd-B） 用排水管P（Po-B）・φ0.45～0.60（Sd-B）の想定掘削深さは幾らでお考えでしょうか。掘削深度をご教示ください。	用排水管の掘削深は、用排水構造物標準設計図集208-3、208-4をご確認ください。
19	割掛対象表参考内訳書2/2 支承アンカーボルト箱抜費 支承アンカーボルト箱抜（スパイラルス）A1橋台のφ250は、φ300の誤記でしょうか。ご教示ください。	A1橋台の支承アンカーボルト箱抜径は、φ300が正となります。 後日、資料を訂正いたします。
20	特記仕様書P40 鉄筋工C1 特記仕様書P52 材料調達に伴う変更 鉄筋Cは、エポキシ樹脂塗装鉄筋で機械式定着となっていますが、北海道内で機械式定着施工しエポキシ樹脂塗装が可能な工場はありません。材料の調達は本州で母材を調達して可能な工場（定着工場と塗装工場）に運送・加工（溶接・塗装）し、さらに現場まで輸送しなければならないため、かなり割高となります。特記仕様書に材料調達の文章の記載がないため、材料調達方法をご教示ください。	貴社の施工計画に基づき必要な費用を計上ください。
21	連絡等施設図 P14/128新得PA/SIC平面図（4） 平面図（4）の集水ますDc [^] （SP）・0.90・0.90・1.10：1箇所はどのType区分でしょうか。TypeLが特記記載の記号区分数量が3個不足しているのでTypeLでしょうか。詳細をご教示ください	集水ます Dc [^] （Sp）・0.90・0.90・1.10の区分はTypeEとなります。 後日、設計図書を訂正いたします。
22	連絡等施設図 P11/128～19/128新得PA/SIC平面図（1）～（9） 平面図より集水ますTypeLはDc-S-0.80-0.80-2.25：9箇所、Dc-S-0.80-0.80-2.45：7箇所、Dc [^] （Sp）-1.30-1.30-1.15：3箇所、Dc [^] （Sp）-1.50-1.50-1.15：2箇所、Dc [^] （Sp）-1.30-1.30-1.50：1箇所、Dc [^] （Sp）-1.30-1.30-1.60：1箇所の合計23箇所になりますが、設計数量の26箇所の内訳をご教示ください。	集水ますTypeLの数量は、23箇所が正となります。 後日、設計図書を訂正いたします。

番号	質問事項	回 答
23	詳細図P47/58 仮設防護詳細図 仮設防護柵A L=4.0mの製品重量をご教示ください。	m当り重量は、0.134tを想定しています。
24	【参考積算条件書】（その2）④その他副資材 ①ファーネス：熱出力75,000cal/h とありますが、75,000kcal/h の誤記でしょうか。ご教示ください。 ②上記ファーネスの時間当たり灯油の消費量をご教示ください。 ③上記ファーネスの想定している商品名があれば、ご教示ください。	①ファーネスの熱出力は、75,000kcal/hが正となります。 ②③参考積算条件書に関する質問にはお答えできません。貴社の施工計画に基づきお考えください。
25	特記仕様書P14 盛土材料 盛土工A4 特記仕様書P20 再生資材の使用 盛土工A4 盛土工A4に使用する材料は、切込碎石C-80-0mm（NEXCO JGS凍上試験適合品）ではなく、特記仕様書記載のある再生クラッシャーランRC-80（NEXCO JGS凍上試験適合品）を使用するのでしょうか。材料の詳細をご教示ください。	特記仕様書15-1 盛土材等(1) のとおり、再生クラッシャーランRC-80の使用を想定しております。
26	特記仕様書P20 再生資材の使用 裏込め碎石 詳細図P32/58 ブロック積工 ブロック積工の裏込めに使用する材料は、RC-40（再生資材の使用に記載）とRC-80（図面に記載）どちらの材料になりますか。ご教示ください。	RC-80が正となります。 R08.06.11掲載の訂正公告をご確認ください。
27	鋼製ふた工について 特記仕様書26-5-5 鋼製ふた工A は、集水ますDc [〓] （SP）等の縞鋼板ふたのことでしょうか。詳細図および排水系統図に表示がありませんので、内容をご教示ください。	鋼製ふた工Aは、集水ますの縞鋼板ふたが対象となります。 なお、設計図 連絡等施設 11/128～19/128及び設計図 詳細図 48/58～56/58に誤りがありますので、後日、設計図書を訂正いたします。
28	仮設防護柵工について 特記仕様書26-12 種別：衝突緩衝材A の材料は、購入品と考えてよろしいでしょうか。ご教示ください。	仮設防護柵工 衝突緩衝材A（Y）の材料は、購入品を想定しています。 後日、設計図書を訂正いたします。
29	油水分離ます C、Dについて ①詳細図24/58 内の数量表 埋戻し3.46m ³ 残土3.46m ³ 、 ②詳細図25/58 内の数量表 掘削22.1m ³ 埋戻し22.1m ³ 残土22.1m ³ 上記①②について、誤りがないかご確認お願いします。	油水分離ますC及びDの数量は下記のとおりとなります。 【油水分離ますC】 ・掘削：22.05m ³ 、埋戻し：12.74m ³ 、残土：9.31m ³ 【油水分離ますD】 ・掘削：27.93m ³ 、埋戻し：17.65m ³ 、残土：10.28m ³ 後日、設計図書を訂正いたします。

番号	質問事項	回 答
30	特記仕様書、数量表、図面において、5 区域「①本線 ②新得PA ③新得スマートIC ④新得町(道の駅) ⑤新得町(新得スマートIC)」で区分されています。この区分で土工数量を当社で算出したところ、客土掘削土砂A、盛土工C1・C2 において、数量表と差異があります。詳細図と数量表の区分、各単価項目の工事内容等について、誤りがないかご確認をお願いします。 例) 客土掘削 土砂A 区分：③新得スマートIC 内容等：特記26-3-1 より盛土箇所下部路床部 数量：数量表6813.7m³、当社算出500m³	客土掘削 土砂Aの数量区分は、新得PAの数量が6813.7m³、SICの数量が565.9m³となります。 後日、設計図書を訂正いたします。 また、盛土工C1の数量が27,851.9m³、盛土工C2の数量が67,145.5m³となります。 訂正公告をご確認ください。
31	特記仕様書26-3-3 構造物掘削 構造物掘削(特殊部A)の硬質地盤クリア工法につきまして、設計成果品に記載の地質条件(最大換算N値750、礫径約300mm)から、フライホイール式パイロオーガ搭載機(NETIS:KT-220224-VE)の使用が必要と考えられます。 当初設計において当該機種が計上がなされているか、また計上されていない場合で実際に必要となった場合は、設計変更の対象となりますか。ご教示願います。	当該箇所の換算N値は最大300を想定し、必要な機械を計上しております。変更協議の対象か否かなどの契約締結後の取り扱いに関することはお答えできません。
32	割掛対象表参考内訳書 硬質地盤クリア工法で使用する圧入引抜機の機械重量が、29.7tとなるため、貨物自動車による運搬費が発生しますが、運搬費の項目がありません。 運搬費については、設計変更対象と考えてよろしいでしょうか。ご教示願います。	硬質地盤専用圧入機については、共通仮設費 工事用機械運搬費で計上します。 後日、設計図書を訂正いたします。
33	【⑩_4【設計図(詳細図)】】図面番号7～10,12,13/58 Dc-S-a-b-c(改修)-の鉄筋A(D13)はSD295A、SD345のどちらでしょうか。	鉄筋Aの種別は、SD345となります。
34	特記仕様書P47 27. 割掛対象表の項目に示す工事の内容 硬質地盤クリア工法が適用されている構造物掘削特殊部A、用排水管、集水ますにおいて、「工事用機械運搬」の項目がありません。 この費用は単価項目の(11)構造物掘削特殊部A、(38)P(Po-B)・Φ0.40(Sd-B)-A、(39)P(Po-B)・Φ0.40(Sd-B)-B、(60)集水ますTypeW、(61)集水ますTypeX、(62)集水ますTypeY、(63)集水ますTypeZのいずれかに含まれているのでしょうか。ご教示ください。	硬質地盤専用圧入機については、共通仮設費 工事用機械運搬費で計上します。 後日、設計図書を訂正いたします。

番号	質問事項	回 答
35	金抜設計書 P.7 単価項目74「特-(2) 鋼製ふた工」について、材料質量2,874kg の算出根拠をご教示ください。 また、集水ます蓋ごとの規格、数量および重量の内訳についても併せてご教示願います。	鋼製ふた工の数量は、3,172kgが正となります。 数量の算出は、用排水構造物標準設計図集304及び設計図 詳細図2/58、3/58、26/58、27/58をご確認ください。 なお、設計図及び数量に誤りがありましたので、後日、設計図書を訂正いたします。
36	単価表番号103 機械拘束Aについては、設計数量が454台・日であることから、3シーズン分と考え、これに係る機材の運搬費を計上されていると考えてよろしいでしょうか。	20t未満の機械を運搬を想定しており、共通仕様書1-34-1のとおり、質量20t未満の建設機械搬入・搬出及び現場内小運搬は諸経費に含まれます。貴社の施工計画に基づき必要な費用を計上ください。